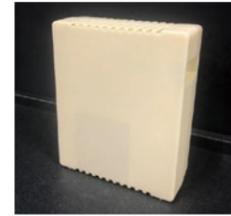


## 川崎ウェルフェアテクノロジーラボ (川崎ウェルテック)



## 支援事例 (相談・検証事例)

### 「ミリ波レーダー見守り装置」 | 富士通株式会社



#### 製品の特徴

- ・ミリ波レーダーのセンシング結果を解析し、居室内の状態(在・不在、転倒有無等)を検知
- ・カメラ映像と違ってプライバシーに配慮ができ、身体への着用も不要であるため、利用者の負担なく見守り可能
- ・転倒等の危険状態を検知して、介護職員等にメールやSMSを通知可能

### 開発者インタビュー 富士通株式会社 Digital Solution事業本部 藤本 健太様

- ✓ 弊社から検証計画を提示させていただいた際に、**検証の手法や検証すべき観点をフィードバック**いただき、効果的な検証を実施する事ができました。
- ✓ ウェルテック様の**模擬環境ラボ**では、介護ベッドやトイレといった介護施設を想定した設備を揃えており、**弊社環境では発生しなかった課題を検出し、精度改善**を図る事ができました。
- ✓ 介護施設である川崎ラシクル様と橋渡しをしていただき、**実際の介護施設で長期の運用検証が実現**できました。また、検証結果を踏まえ、**ウェルテック様からも改善案をいただき**、今までに無かった観点で改良する事ができました。



「模擬環境ラボ」での検証の様子

### 施設概要・アクセスマップ

所在地	〒210-0024 神奈川県川崎市川崎区日進町 5-1 川崎市複合福祉センター「ふくふく」1階
開設時間	10時から16時30分まで(12時から13時を除く)
休業日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始
交通アクセス	JR川崎駅徒歩15分・京急八丁駅駅徒歩5分



### お問い合わせ

ウェルテックでの支援事業は、川崎市内の企業を中心に、**無償で利用が可能です。まずは、お気軽にご相談ください。**

電話番号 044-223-6468  
 メールアドレス info@kawasaki-weltech.com  
 ホームページ <https://www.kawasaki-weltech.com/>

**支援を希望される方  
ご質問がある方はこちらから**

ホームページ内の「お問い合わせ」フォームよりご連絡ください。





# ウェルテックとは？

## 福祉施設の居室を想定した「模擬環境ラボ」を備えた福祉製品・サービスの開発支援施設

ウェルテックは、川崎市・国立大学法人東京工業大学・国立研究開発法人産業技術総合研究所の三者によって運営される福祉製品等の開発支援施設です。川崎市複合福祉センター「ふくふく」内に立地する特徴を活かして、福祉現場のニーズを収集したり、新たな福祉製品開発に反映できます。また、「模擬環境ラボ」を活用して、福祉製品の性能・安全性を科学的に評価するなど、開発・改良に向けた伴走支援を実施します。さらに、開発した製品の普及・導入支援を行うことで、製品等の利用者の自立支援や福祉現場の負担軽減に繋がります。



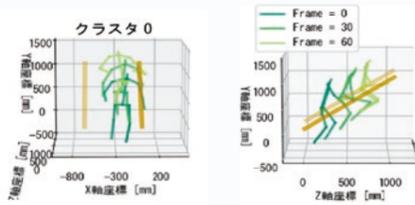
川崎市複合福祉センター「ふくふく」

### 川崎市複合福祉センター「ふくふく」建物内という立地の強みを生かした連携

8F	民間	特別養護老人ホーム 川崎ラシクル	現場のニーズの提供やモニター評価等を通じた現場で役に立つ福祉製品開発への協力
7F			
6F			
5F			
4F	川崎市	障害者支援施設 川崎ラシクル	福祉現場の負担軽減や、介護技術向上に資する開発や福祉現場との橋渡しの協力
3F			
2F			
同一建物内の各福祉施設と連携			
1F	Kawasaki Welfare Technology Lab (ウェルテック)		地域交流スペース 川崎らしくる保育園 など

### 製品のユーザビリティ調査

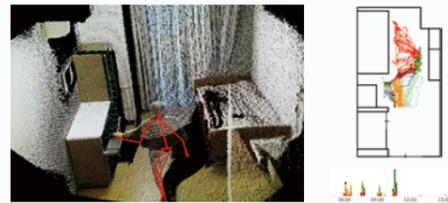
姿勢データ、力のデータなどを用いた製品評価を行います。



▲手すりを把持する際の身体保持特性にかかわる姿勢・力学データを取得

### 製品の使われ方の科学

実際の現場での短期から長期の使用実態の解析を行います。



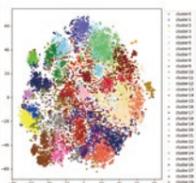
▲RGBDカメラを用いて、介護施設での長期行動データから典型的な製品の使われ方を定量的に分析

### 模擬環境ラボ



### データに基づくニーズ調査

事故や不具合のビッグデータを用いたニーズ調査支援を行います。



◀データベースに対し、テキストマイニング技術を用いて、類似した事故状況へ分類し、実際に起こっている生活空間内の事故を分析

### 大型モニターと交流スペース

評価・ディスカッションのほか、各種会議やセミナー、面接、研修等にもご利用いただけます。



## ウェルテックを核とした福祉製品開発から普及までの支援スキーム

### 1 開発の検討・準備段階での支援

- 東工大・産総研による個別相談や福祉関係者との勉強会等による現場の課題・福祉機器等のニーズ収集と提供
- 開発・改良を検討する企業や、開発に必要な技術を持つ企業とのマッチング支援

#### 実施事例

福祉施設の専門職スタッフ30名と企業約20名が参加した勉強会



### 2 製品開発・改良の支援



#### 一次評価

東京工業大学、産業技術総合研究所による相談対応・事前評価

- 製品の安全・性能等評価
- 評価結果のフィードバック

健常者による実験などを中心に、福祉製品・サービス等の安全性や性能等について、有識者等の知見なども踏まえ評価を実施し、評価結果・改善点等を開発事業者にお伝えします。

#### 本評価

複合福祉センター「ふくふく」内の福祉施設等で実際に利用して評価

- 実環境での評価実証

一次評価で基準を満たした製品等については、実環境で一定期間実際に使用してもらいます。利用者、ケアラーそれぞれの目線で評価を実施し、事業者、支援者とともにディスカッションを行います。

### 3 開発・改良製品の認証、普及支援

- 川崎市独自の福祉製品のあり方を示したかわさき基準 (KIS) 認証による普及支援
- 認証福祉製品展示会等の開催



かわさき基準 (KIS) について詳しくは、川崎市のホームページをご覧ください。